

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000229		
法人名	社会福祉法人 北見陸会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館		
所在地	北見市端野町端野25番2		
自己評価作成日	H31.2.10	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosyoCd=0195000229-008
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成31年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しづつ、自分らしく、ありのままにを基本理念に基づき、健康、生活に不安なく安心して暮らしていけるよう支援しています。

地域、方々の慰問や交流を持ち、施設での生活を楽しまれるよう職員一同で工夫し取り組んでいます。

また、明るく楽しくゆったりと生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成21年開設されましたグループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館は、社会福祉法人を母体としており「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を営む事が出来るよう支援することを目的としています」を法人の理念として、事業推進に努めています。グループホームは法人理念を踏まえて「少しづつ、自分らしく、ありのままに」を事業所理念としており利用者が自分らしく、意向に沿った生活が出来るよう支援しています。どんな生活がしたいか、何を望んでいるか、利用者に寄り添い、気持ちを汲み取りながら全員で共有する様記録しながら介護に努めています。メリハリのある生活が出来る様気候が良くなると日常的に外気浴や外出の計画を立て、気分転換を図っています。職員の研修は法人主体で取り組んでおり年度計画で身体拘束や虐待、接遇について行っており、実務者研修等の資格取得を目指す職員には補助制度も用意されています。併設の小規模多機能事業所と運営推進会議や避難訓練等合同で取り組むことが多くあり共に意向に沿った生活が出来るように取り組む事業所となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はユニットに掲示し共有、利用者様一人ひとりがその人らしい生活が送れるよう努めている。	法人理念、事業所理念を玄関、ユニットリビング掲示板に掲示しています。新人研修時や途中入社した職員にも事務長から話があり意識の元に置きながら実践できるよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域清掃等参加、当施設研修会の回覧、地域の小学校、保育園等の慰問、または避難訓練、焼肉会のお手伝いの協力をお願いし、交流を深めています。	町内会に加入しており、春の清掃活動や花壇の植栽等に参加しています。また屋外での町内会焼き肉には参加し、事業所の避難訓練や焼き肉会への参加やお手伝いの協力を得ています。小学校、幼稚園、保育所等の訪問もあり交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で状況報告、質問等には支援方法等答えている。また、当施設研修会参加のお知らせをしました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、ご家族様、町内会、包括支援センター、地域民生委員等が構成員とし、事業報告、そこでの意見を反映できるようスタッフへ報告しサービス向上に努めている。	運営推進会議は年6回併設の小規模多機能と合同で取り組み、利用者、家族その他多くの方の出席を得て、活動、利用状況、身体拘束廃止について報告をし意見を得て、サービス向上に役立てています。家族には議事録を送付し情報共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことや、困難事例に対して行政に相談し指導を仰いでいる。	市担当課からは最近では、メール、FAX、で研修や会議の案内がくる事が多く、電話でのやり取りや訪問して報告書等を行うこともあります。支所に提出の書類もあり適宜訪問して協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体(年2回)も研修を行い、理解を深めている。また、2ヶ月に一回の身体拘束委員会で話し合い、施設全体で拘束を行わないケアに取り組んでいます。また、日中の施錠は行っておりません。	身体拘束廃止に向けては、身体拘束等の適正化に関する指針を作成し、身体拘束等適正化委員会を設置して3ヶ月毎に開催して運営推進会議に報告をしています。職員研修にも取り組んでおり弊害や禁止行為、不適切な言葉について理解し適切な介護になる様努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での虐待研修に参加し、理解を深めている。また、傷、発赤等の確認をし、チェックシートに記入、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用されている利用者様はいないが、法人研修等に参加し理解、実践に取り組み支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時は説明、ご理解いただけるよう努めています。また、契約後も解らないことや疑問点は聞いていただき説明できるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様より意見、要望があれば話し合い、要望に応えられるように努めている。	利用者、家族の意見や要望は会話や面会時に職員が様子をお話ししながら会話の中で把握するように努めます。また、お便りでも日常の様子を写真や担当者からの一言で知らせており要望があるときは反映できるよう取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見を聞いたり、個々が意見を提案することもあるが、それを職員が思っているようには反映できていない。	職員の意見や提案は毎月のユニット会議や日常の業務の中で把握するようしており、管理者や事務長が直接面談する事もあります。提案は法人決裁を経て反映され運営に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体での資格取得のための補助、自己を高める研修を設け向上心アップにつなげる努力はしているものの給与水準、労働時間等不満を抱えるスタッフも少なくなく職員不足が解消できず業務の負担も大きい状態である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修参加に力を促している。外部研修は回覧としているが意欲的な方の参加のみで、参加できる環境にしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はなかなか取り組めていないが、研修等で交流を深めサービス向上に取り組めるよう努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時より不安、要望等を把握しスタッフ全員が共有し、安心感を持っていただけるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、ご本人様、ご家族様の不安、要望等を把握するよう努め、信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が今何を必要としているのかを見極めサービスにつなげるプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の希望、能力に応じることができることは一緒にできるよう心掛け、共に支えれる関係に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、または電話等で利用者様の様子等を報告し、ご家族様と情報を共有しともに支援していくことに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族や友人、知人様ができるようになっている。また、併設の小規模多機能事業所への行き来も自由に行っている。	馴染みの美容室へ訪問する利用者は少なくありませんでしたが、現在も家族対応で行っています。馴染みの美容さんの訪問があり整髪を受けている利用者もいます。また、知人の訪問があり、関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、孤立しないようスタッフが間に入り関わりあい支援できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	修了後も関係を大切に必要時には支援できるよう努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、行動等で利用者様の希望、思いを汲み取るよう努力し、カンファレンス等で話し合い、困難時にはご家族様とも相談しご本人様の思いに応えられるよう努めています。	利用者の思いや暮らし方の要望は日常の会話の中で把握し、送り記録に記入し、毎月のカンファレンスで話し合いながら、共有し実現できるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、利用者様、ご家族様からお話を伺い把握し、スタッフ同志共有し、今までの生活に近づけるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に記録し、心身状態の変化を見落とさないよう現状把握し、自立支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、思いや状態を踏まえ、ご本人様、ご家族様、医療とも連携をし、意見を反映させスタッフが同じケアを行えるよう努めている。	介護計画は3ヶ月毎に利用者、家族の要望を踏まえて見直しています。毎月ユニット会議でカンファレンスを行い様子を話し合っており更に、利用者担当職員がモニタリングして評価を行っています。サービス担当者会議に家族の参加があり適切なサービス提供が出来るよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を生活記録、送りノートに記録し、スタッフ間で情報を共有し、カンファレンスで必要事項を話し合い、実践、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に応じてご本人様、ご家族様と相談し、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問等のほか花見等の行事を楽しんでいただいています。また、安全面では、緊急時に備え交番にも情報を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様と相談し、希望する医療機関に受診されています。ご家族様受診対応できないときや緊急時には事業所が対応し、受診結果をご家族様に報告している。	定期的な受診は家族が対応して行っており、その際日常の様子や状態を期した記録を渡していますが、事業所の看護師が同行する時もあります。また、月2回の訪問診療を受けている利用者もあり、週1回看護師が訪問し適切な健康管理が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは日々のかかわりの中で、体調の異変等を看護師や訪看に報告し、指示を仰いでいます。またご家族様に報告し受診対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際には情報を提供し病院にも足を運び医療関係者、ご家族様ともに連携した関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、理解に努めています。重度化した場合は、その都度ご家族様と事業所の限界等も説明させていただき対応している。終末期には、ご家族様、事業所、医師、スタッフとともに、方針を共有し支援しています。	重度化した場合や終末期の対応については、利用契約時に重度化した場合における対応に係る指針で説明しています。終末期になった時には看取りに関する指針で再度説明し家族の同意と医療機関の協力を得て取り組む方針になっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急マニュアルが作成されており、スタッフと共有している。また、救命講習会には全員が参加、施設内にはAEDが設置されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアルを作成、火災は年2回、災害は年1回の訓練を行い、消防、町内会様より意見、改善点等をいただき反映させている。	火災の避難訓練は併設の小規模多機能事業所と合同で年2回消防署の指導と町内会の協力を得て行っています。さらに災害訓練で指定避難場所への避難に取り組んでいます。今年のブラックアウトを経験して見直しに取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、言葉かけ等にも気を付け話をしているが、そうでないときもありスタッフ同士で意識を高めあい、誇りやプライバシーを損ない、言葉かけに注意していきたい。	利用者の人格を損ねず羞恥心が起きないように支援に取り組んでいます。お部屋やトイレで介助の時には声で呼びかけ後入室するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の望んでいることを自己決定できるよう支援しています。また、言葉で表せない方は、表情や行動で見分け、支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあり、職員のペースになりがちですが、利用者様の意思を確認し希望に添えるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理容室がこられ、希望者を確認、利用しています。また、季節、外出時の天候等に配慮し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を組んで健康状態、嗜好等にも配慮しているが、献立表を回しているため、新しいメニューをなかなか増やすことができない。調理準備はできていないが片付等できることに對し支援している。	献立は利用者の好みや希望を考慮し、これまでのメニューを参考にして、専門の調理担当者や職員により調理しており、法人の管理栄養士に見てもらい助言を得ています。誕生日には好きなものを出したり、手作りおやつの会を決めて楽しい食事に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に一日の食事量、水分量を記録し対応している。また、ひとり一人の量、形状等を把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔の声掛けをし、必要に応じスタッフが対応し清潔保持に努めています。歯科医とも連携を取っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付け、リズムや習慣を把握しトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄記録をつけ様子や時間を見てさりげなく誘導しトイレでの排泄を支援しています。介助を必要としない利用者には自己チェックをお願いし全員の記録をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、食物繊維の含まれた食品等を提供、水分、運動への働きかけ等個々に応じ対応し、看護師とも相談し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、希望の有無を確認し週2回以上の入浴を行っている。	基本的には週2回、利用者の状態と状況を見て入浴支援を行っています。利用者が湯船につかれる様にと、職員の負担軽減のために一つのユニットにリフトを設置しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や生活リズムを大切に体調等に配慮して安心して休息や午睡ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容と理解に努めている。薬の変更があった場合は連絡ノート等でスタッフ全員で情報を共有し体調変化が見られた場合は看護師、かかりつけ医へ報告、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを持ち過ごしていただけるよう支援に努めています。家事等出来ることをして頂いたり、レクリエーション等で気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってはなかなかできていないが、花見や小規模多機能でのドライブ等に参加させていただいている。	外出は気候が良くなると花見や祭りに出かけています。年度当初に事業計画でおおよその計画をたてており、毎月出かけられるよう取り組んでいます。遠方へ行かない時は買い物ツアーで気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方はお金を所持し自動販売機等を利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには日差しが差し込み、加湿器等で環境を整えている。また、壁には季節に合った飾りをして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	明るく開放感のあるリビングや共用部分は温湿度が管理され生活環境が整えられています。季節の飾りつけがされ行事や日常の写真が飾られ、家族が来た時には見ながら会話され居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座られたり、休まれたり個々の思いの場で過ごされています。テーブル配置等、導線を配慮し席替等も工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物が置かれ、ご家族様の写真等置かれたり利用者様の使いやすいよう工夫しています。	居室にはクローゼットや洗面台が設置されており、筆筒やペット等の家具を持参され壁には家族の写真や絵が飾られ自宅同様に生活できるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁、トイレ、廊下には手すりが配置され一人ひとりが安住に生活が送れるよう工夫しています。		